

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773200029		
法人名	社会福祉法人 立命会		
事業所名	グループホームしらゆり		
所在地	沖縄県南城市知念字久手堅275-3		
自己評価作成日	平成24年7月6日	評価結果市町村受理日	平成24年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4773200029-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成24年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中に竹内式基本ケアを取り入れ、利用者様の一日の水分摂取量1500CC以上目標にし、利用者様お一人お一人の好きな飲み物を取り入れ脱水予防、工夫しています。水分量が増えたことで、脱水の予防になり、便秘の緩和に繋がりが、現在は下剤服用の方はおられません。自立支援に努め、日中は皆様綿パンツ、パッド使用トイレでの排泄に勤めています。毎朝の近隣の散歩や毎週木曜日のドライブ、毎週2回水、土は特養でパワリハを実施し利用者様の活動量を増やしADLの低下、筋力の低下の予防に努めています。又、地域交流にも力を入れれば毎月1回各字のミニデイへ参加し、歌や踊りゲーム等を通して皆様いきいきとした表情が見られます。利用者様が地域で過ごされているという実感が持てるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の施設とともに竹内式基本ケアを実施しており、脱水予防や便秘緩和等の成果が見られる。排せつは、夜間もトイレ誘導等の取り組みが行われ、入浴は毎日実施することで清潔保持だけでなく、睡眠や精神的な安定感が得られている。日常にかかりつけ医との緊密な連携も図られており、教育研修の機会や緊急時における法人のバックアップ体制、テレビ電話を活用した職員の勉強会等、先進的な取り組みがされている。地域交流として、これまでの地域とのつながりが途切れないような取り組みが継続され、また、家族も一緒に遠出の食事会等を実施する等、日頃から家族との信頼関係の構築にも取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「尊厳と受容」をケース検討会議の中で話し合い共有している。また職員一人一人が事業所の理念に沿って「私の理念」を持ち、日々のケアに生かしています。皆さんに見えるように玄関の方に職員の写真と共に掲示しています。	理念は設立当初に作成され、独自のものとなっている。毎月会議等で「尊厳と受容」について共有を図り、理念に基づいた統一したケアの実践に努力している。職員は管理者と話し合い目標を作成し、玄関近くに掲示するとともに周知されている。地域との交流は継続的に実践されているが、理念の中からは読み取りにくい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎月1回利用者と職員は各字のミニデイへ参加し又、地域の方を事業所のほうへ招いたりして、活発に行なっています。が、まだ日常的な交流が少ないので、力を入れていく必要があります。	自治会への加入はないが、社会福祉協議会と連携して地域との交流を定期的に行っている。6月には2字の住民と一緒に事業所でカレーパーティを実施している。法人全体として「夕涼み会」を開催し交流を図っているが、事業所独自で地域住民と交流する機会は少ない。	現在、社会福祉協議会と連携して開催しているミニデイサービスの機会を活用する等、自治会や地域等を巻き込んだ認知症理解のための取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流のほうは5年目を迎え、定着しつつありますが、認知症についての理解がまだ少ないように感じます。一緒に認知症の理解が深まるように啓蒙活動に力を入れていきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、御家族様、そして利用者様の中から交代で代表参加してもらっています。意見交換では、アドバイスや気付きなどは直ぐに改善に向けて取り組むことが出来る様に努めています。	運営推進会議は年6回開催されている。利用者や家族、行政の参加もある。地域代表が3月以降不在となっている。議事内容はサービス提供状況、外部評価、行事予定等の報告となっている。自己評価も実施している。委員の助言でインフルエンザ対策として湿度調整が実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者を訪問し、空室状況の報告やパンフレットを持参して連携を取っています。市職員の紹介で、地域交流の繋がりや、困難事例に対するアドバイス広域の介護相談員のアドバイスなどを受け、サービスの向上に努めています。	市との連携は、2か月に1回の運営推進会議に参加した折、情報交換をしたり、不定期で市に出向き、空き状況等の報告を行っている。市の協力を得て市内にあるグループホーム管理者同志の連絡会を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の玄関や窓は施錠をせず自由に入出入りが出来るようになっていきます。不穏になり、ひとりで、外出される方については、職員は一緒に同行、声掛け、買い物等に誘っています。	身体拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠はされていないが、鈴が取り付けられている。夜間は、センサーで対応する利用者もいる。入居間もない利用者及び家族にリスクに関する説明や話し合いがされている。2月に実施された法人主催の権利擁護に関する研修会に職員も参加している。	

沖縄県（グループホームしらゆり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修で高齢者の虐待について勉強会を持っています。利用者さまの暴言などに職員の言葉使いも少しあらくなったりしますので、そのときは気付き注意しています。コミュニケーションを大切にしていますので、虐待はないと思います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招いて、研修があり、勉強会に参加しましたが、職員全員の周知は内容が難しく、もっと研修の機会を増やしていきたいと感じました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃から御家族様の要望や意見などは何うように、気付けるようにしています。その都度、可能な限り説明など行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情ボックスを設置していますが、今の所ありません、相談などがあれば、直ぐに対応し、改善できていると思います。	利用者の意見や思いは、散歩の時等1対1になった時に聞いている場合が多い。また、面会時に家族から意見を聞くよう努めている。意見が出た場合は、申し送り時や職員会議等で話し合いを行っている。介護相談員からの意見で靴箱が壊れていると指摘を受け、改善した事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース検討会議中での利用者のケアへの気付きや改善等意見があれば、その都度、ケアに生かしています。毎月、全職員が参加して、サービスの向上やチームワークに努めています。	毎月の会議には全職員が参加し、その中で職員の意見を聞いたり、新職員等に対しては管理者が個別面談して意見を聴取している。女性職員に対する暴言がある利用者に対して、男性職員で対応することで改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事をするスピード等で、個々に多少差はありますが、労働時間は守られている方だと思います。手当等も充実しており、給与水準は高いほうだと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が取り組む竹内式の研修会へ参加し、伝達研修もケース検討会議の中で、報告し、認知症についての知識向上に努めています。毎月2回参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで、行なわれていません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの段階から詳細に生活歴や病歴等聞き取り、入居後は安心して施設での生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には声掛けをし、本人さんの様子を伝え御家族様の様子を伺うようにしています。難しい御家族様については、様子を見ながら段階的に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居待ちの利用者様に関しては、レベルを慎重に考え、在宅のほうでまだ生活できるかどうか相談する時もあります。又、レベルが下がり、GHでは難しいと考えられる時は特養の方等に連携する事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は意識し取り組んでいる方だと思います。しかし、ケアが大変な時には、意識がゆらいでしまうところが見られますので、あともう少しといった感じです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の状況等をお話しし、連携をとるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に週2回近隣のスーパーへ買い物へ行き馴染みの方と会い、談笑される時間があります。地域との密着したケアに取り組むことができています。	利用者の生活歴や職業、趣味等の把握は主に家族から聞き取りしている。入居前、デイサービスを利用していた場合は事業所から情報を得ている。外出が好きな利用者は、職員と一緒に出かけ、馴染みの店で嗜好品を購入している。地域の行事等を把握し、出身地のミニデイサービスに参加する等、馴染みの関係を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様の個性を尊重し、テーブルの配置や車の座席の配置等、トラブルが多い方は工夫してお互い不穏にならないよう配置しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体ば特養へ移動される方が殆んどです。母体とも連携を取りながら、利用者様の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の好きな、飲み物、お菓子、行きたい場所を優先にしています。意思疎通困難な方は、表情や行動観察、御家族様の協力の下対応するように努めています。	利用者の思いや意向は、散歩時や家族等から聴取している。例えば、利用者との会話の中から好きな菓子を把握した場合、その菓子を持参して散歩等に出かけている。把握困難な場合は、管理者もケアに関わる中で、表情やことば、しぐさ等から職員と意見交換しながら判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調、入居後の生活の中で状況を見ながら御家族様、地域の方、母体の職員等のお話を伺いながら支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックで、心身の状態の把握に努め、週2回のパワリハで、直接職員も関わる事で日々の残存機能の把握に努めています。日々の心身の変化には観察が来ています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行なわれているケース検討会議と3ヶ月に1回のモニタリングを実施、利用者、家族、関係者の意見やアドバイスを計画書に反映させています。	介護計画書は本人や家族、職員参加の下、担当者会議を開催し意見を聴取しながら作成されている。医師からは文書によるアドバイスがあり計画に反映されている。また、介護計画は年1回見直しされ、必要に応じた随時見直しも確認できた。モニタリングも定期的実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人の記録、全職員が共有する日報と2種類あります。共有できる事で計画書にも火映が来ていると思います。		

沖縄県（グループホームしらゆり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体特養との、夕涼み会、運動会、ハリー観戦を一緒に参加しています。パワーリハビリは特養で行い、利用者様は運動をしながら特養の方ともコミュニケーション図り、楽しまれています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほぼ毎月1回各字のミニデイへ参加し馴染みの方と触れ合う機会を持っています。地域の行事ではハリー観戦に出かけました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近の体調や心身の変化を詳しくお伝えするようにしています。お薬等が変更される場合は、全職員で観察強化行なっています。	利用者全員が月2回、内科と精神科の往診を受けている。かかりつけ医は法人施設の嘱託医も兼ねており、緊急時対応や精神科薬の調整等、普段から緊密な連携が図られ情報交換がされている。眼科等専門科受診は家族が対応し、受信後の結果は家族から聞き取りをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルや心身、睡眠状況等の変化も申し送りがあるので、迅速な対応心掛けています。全職員がバイタル測定できます。必要時はかかりつけ医に繋ぎ早期に対応行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会し、状況を確認するようにしています。なるべく早く退院が出来るように担当医にお話を伺い御家族に連絡、又かかりつけ医にも間に入っていたりDr間の連携によって支援が行われています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後に向けて事業所の体制作りを検討する必要がある。	重度化した場合や医療的なケアが必要なときは事業所での生活は難しい旨を口頭で家族に説明している。入居後は家族の面会時に具体的な話し合いを行っている。事業所として、重度化や終末期に向けた具体的な指針は明文化されていない。現状では、特養ホームへ入居希望の家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回急変時に備えて迅速に対応できるように消防署からダミー人形、AEDをお借りして訓練を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の1月にスプリンクラーの設置が完了しました。に2回の消防訓練実施し、実践で生かせるように取り組むことができています。実際、認知症の方たちで、状況が理解できなくて、不穏になる方もいますので、工夫が必要です。	消防署立ち会いの下、法人全体での総合訓練と自主訓練を実施している。昨年スプリンクラー工事が完了している。初期消火用として台所と玄関に消火器2本が設置されている。これまで2階の有料老人ホームとの合同避難訓練が実施されていない。	法人の特養ホームと医療的な緊急時における協力体制はとられているが、火災等災害時における具体的な協力体制は取り組まれていない。今後は、夜間を想定した避難訓練の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報鍵付きのロッカーに保管しています。利用者の気持ちを尊重し、できる限り希望に添うよう努めています。不適切な対応がないか管理者は常に確認しています。	日々のケアの中で、常に事業所の理念である「利用者の人間としての尊厳と価値を尊重する」に立ち戻りながら、気づきを通して利用者の人格を尊重した対応を心がけている。トイレのドアが一部開閉に支障が見られた。また、運営推進会議の議事録について個人情報への配慮が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限りの支援に努めています。帰宅願望時は御家族と話しお話ししてもらったり、面会していただいたり、家まで同行したりします。散歩や買い物やお出掛けも沢山の機会を持てるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいと思っています。ご本人の意思決定を尊重していますが、現場が大変な時は余裕がなくなってしまうので、支援出来るよう工夫が必要です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日に入浴での清潔保持と、男性は髭剃りも毎回行なっています。女性は御自分の好みも洋服で過ごされています。月に1回美容師さんが訪問されるので、その時にカットやし白髪染めされます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は利用者さんと一緒に行くようにしています。職員は利用者の表情や作業の様子を観察し、無理にしていなかなども観察し、楽しく参加してもらえるようにしています。もやしの髭採りは毎日の日課になっています。	法人施設の栄養士が作成した献立に沿って、野菜等の食材買出しを利用者と一緒に行い、3食とも事業所で調理し利用者と同じ食事を摂っている。台所及び食卓スペースは狭いが家庭的な雰囲気の中で、毎日食事を楽しんでいる様子がかがえた。もやしのひげとりや食後の片付け等、できることは利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記の通り管理栄養士の献立のメニューの元調理を行なっています。摂取状況は記録し、毎月体重測定を行い個々に剃った食事の支援を行う水分量も一日1500以上摂取できるよう支援しています。飲み物も個々の好きなもの提供しています		

沖縄県（グループホームしらゆり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っています。又週1回超音波義歯洗浄を使用し口腔内の清潔を保つようにしています。歯科へ通うのは中々大変なので、訪問歯科が利用できると良いです。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄誘導を基本とし、昼夜、全員がトイレ誘導行いが、夜間帯に熟睡される方に関しては睡眠を妨げないように睡眠を優先にしています。	法人全体で「おむつはずし」に取り組まれており、グループホームにおいてもできる限りオムツを使用しない工夫を実践し、夜間もポータブルトイレは使用せずトイレまで誘導する等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の中止と水分摂取一日1500以上摂取、便秘気味な方には、毎食後、センナ茶を提供し、便秘の緩和に努めています。又、排便が-3日の方に関しては必ず申し送りし、状態の把握に努めています。活動量を増やす為、パワリハ、散歩を継続しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心に配慮して、同姓の職員が介助する方もいます。勤務の中で、職員が声掛けし、なるべく女性は女性職員で対応するようにしています。毎日、入浴することで、爽快になり、気持ちの面でも落ち着かれているように感じます。御家族も喜ばれます。	1年を通して毎日入浴を実施している。入浴を拒否する場合は、無理強いせず翌日以降再度誘導する等、一人ひとりにあつた対応をしている。男性利用者は毎回同性介助を行うことは難しいが、女性利用者は同性介助ができる時間帯で対応している。対応できないときは本人に了解を取り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や睡眠時間は可能な限り個々にあわせるように努めています。間接照明を利用してゆっくり休めるようにしています。又、眠れない方には、温かいお茶や好きな飲み物を提供し落ち着いてから再度入眠されたり、工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者の方で、服薬の管理を行ない、状態の変化、観察を行っています。夜間帯の状況に関しては勤務者に詳細に記録に残してもらい与薬の方は各勤務者で行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週のドライブや買い物、外食やお出掛け等外出支援は出来ていると思いますが、個々に添った全員のとなると少し難しくなりますが、皆さん気分転換にはなっていると思います。		

沖縄県（グループホームしらゆり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩では自然な場所の中で、一緒に花を摘んだり、景色を見て楽しんだりしています。毎週木曜日のドライブ、毎月1回の地域交流、2ヶ月毎のお出掛け、週2回の近隣へのスーパーへの買出し等可能な限りの支援を行っています。	食事の買い出しを兼ねて週2回近隣のスーパーまで一緒に出かけている。ほとんどの利用者が歩行可能のため、日常的には隣接する施設等の敷地周辺を散歩している。2か月に1回の間隔で、ホテルやテーマパーク等、家族との交流も兼ねて遠出の食事会を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様でお2人こずかいを持っています。買出しの時に好きなお菓子等を買っています。使ったお金は保管し、領収書と記録も残し、御家族へ報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様よりお話がしたいと訴えがあったり、電話してほしいとありましたら、職員が電話をかけ、ご本人様に変わりお話ししてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は台所と同一しており、利用者さまも食堂で過ごされる方が殆んどです、職員が毎食調理するので、家庭的な良い臭いが何時もします。窓が多く外の景色が良く見え、開放的です。	昼食後は、食卓で利用者同志くつろいでいる。また、廊下には赤いソファが置かれ横になって昼寝をしている利用者もおり、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしている様子がうかがえた。ただ玄関周りに生活感を感じるものが少ないことから、家庭的な雰囲気の工夫が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間になっている場所で皆さん過ごされることが多いです。テレビを見たり、談笑したり、一緒に民謡を歌う方もいます。皆が集まる場所の定着しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた寝具やテレビ、ソファなどを利用者様の個性に合わせて配置しています。居心地の良い、清潔にあふれる部屋の提供を心掛けています。	各々の居室には、大工道具、帽子、鏡等、利用者の馴染みのものが持ち込まれている。本人の希望やこれまでの習慣に合わせて、ベッドの向きを変えたり、ベッドと合わせてたたみを敷く等の配慮がされている。また、家族も参加して事業所の大掃除や衣替え等を一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、トイレ、自室が分かるように大きな文字で掲示し、分かりやすくなるように工夫しています。		